

■ **藤原咲平** 気象学者。独創的な研究を行なう一方、後に続々登場する"お天気博士"の祖となった。

ふじわらさくへい

秩父事件・ 1884 = 長野県上諏訪で、士族の町長藤原光蔵の長男に生まれる。

帝国憲法発布 1889 = 5歳：

郡司千島探検 1893 = **9歳**：

日清戦争始・ 1894 = 10歳：

教科書疑獄・ 1902 = **18歳**：

日露戦争終・ 1905 = 21歳：

在学中、**寺田寅彦**・**長岡半太郎**らの教えを受けて、

伊藤博文暗殺 1909 = 25歳： **東京帝国大学理科大学理論物理学科卒業。中央気象台技手となり、**

大逆事件判決 1911 = **27歳**： **音の異常伝播についての論文を発表、**

明治天皇没・ 1912 = 28歳：

大正政変・ 1913 = 29歳：さらに、追加の報告をして、

21ヶ条要求・ 1915 = 31歳： ***「音の異常伝播の研究」をまとめて、理学博士の学位を受け、**

大暴落・ 1920 = **36歳**： **さらに帝国学士院賞を受けた。ノルウェー、イギリスに留学。**

原敬首相暗殺 1921 = 37歳：

水平社結成・ 1922 = 38歳： ***帰国すると、ノルウェー流の天気図解説を日本に導入。中央気象台付属学校長、**

護憲三派圧勝 1924 = 40歳： **寺田寅彦の後任として、東大教授に就任。**

気象に関する多くの独創的な研究を行い、気象光学、御神渡、大西風などの研究があり、とくに渦の研究はよく知られている。また、このころグライダーの発展にも貢献した。**昭和初期には天気予報の現場にいて、"お天気博士"として親しまれた。**

円本時代始・ 1926 = 42歳： **著書には「雲を掴む話」、**

世界恐慌・ 1929 = **45歳**： **「雲」などがある。**

満州事変・ 1931 = 47歳：

日中戦争始・ 1937 = 53歳：帝国学士院会員となり、

健保+総動員 1938 = **54歳**：

日米開戦・ 1941 = 57歳： ***岡田武松の跡をつぎ、中央気象台台長となった。大本営付きで、戦争中の気象事業の運営に当たり、**

敗戦・ 1945 = 61歳：戦後は気象事業の再建につとめ、

新憲法施行・ 1947 = **63歳**： ***和達清夫にあとをやずり、退官した。公職追放となり、**

朝鮮戦争始・ 1950 = 66歳： **不遇のまま、没した。**

なお、作家の新田次郎は藤原咲平の甥である。姓は"ふじはら"ともいう。